

八代市議会自由民主党会派（礎・和・絆）、公明党会派

海外行政視察復命書（視察結果報告書）

○視察期日

2025年4月14日（月）～4月17日（木）

○主な視察先

台湾 基隆市 4月14日（月）

台湾 台北市 4月15日（火）

台湾 新竹市 4月16日（水）

台湾 桃園市 4月17日（木）

○視察目的

基隆市は、基隆市政府、基隆市議会との意見交換。

台北市は、経済団体三三会の事務局を務める企業である CTBC を訪問。

新竹市は、TSMC のある新竹科学園区管理局の視察と新竹市政府との意見交換。

桃園市は、全民国防教育学科中心の視察を目的とする。

○視察参加者

議員 成松 由紀夫

議員 橋本 幸一

議員 村川 清則

議員 北園 武広

議員 友枝 和也

議員 橋本 貴喜

議員 橋本 隆一

台湾 基隆市

1 視察日 2025年4月14日(月)

2 調査事項

① 基隆市政府との意見交換

クルーズ船の最近の動向について、今後の本市との交流について、最近着工した民間の物流センターの概要についての意見交換を行い、関係性をさらに高める。

② 基隆市議会との意見交換

最近着工した民間の物流センターの概要について意見交換を行い、執行部と議会の在り方を確認し、関係性を高める。

① 新竹市政府との意見交換



② 新竹市議会との意見交換



台湾 台北市

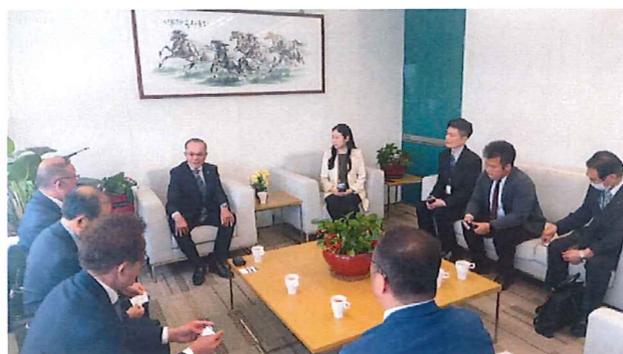
1 視察日 2025年4月15日(火)

2 調査事項

① CTBC 訪問

CTBC を訪問し、台湾経済の動向や日本市場に対する見解について調査を行う。

① CTBC 訪問



台湾 新竹市

1 視察日 2025年4月16日(水)

2 調査項目

① 新竹科学園区管理局視察

サイエンスパーク内の企業との具体的な連携の取組について調査を行う。

② 新竹市政府との意見交換

今後の本市との交流についてどのように進めていくべきか意見交換を行い、更なる関係性を高める。

① 新竹科学園区管理局視察



② 新竹市政府との意見交換



台湾 桃園市

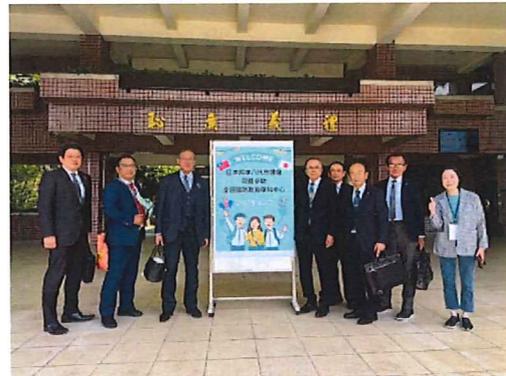
1 視察日 2025年4月17日(木)

2 調査事項

① 全民国防教育学科中心の取組について

台湾の全民国防教育がどのようなものであるのか、高校生世代に対して行うことでどのような人材が育成されるのか調査を行う。

① 全民国防教育学科中心



視察所見

議員名〔成松由紀夫〕

- ◆視察日：令和7年4月14日(月)
- ◆視察先：台湾基隆市
- ◆調査項目：基隆市政府・基隆市議会

(基隆市政府)

1. クルーズ船の最近の動向について

○市長、副市長のトップセールスや民間の働きかけにより、

2024年、331回、78万74人、2025年、468回、90

万34人のクルーズ船寄港があり、右肩上がりに効果が出ている。

○台新銀行がクルーズ寄港に貢献し、沖縄のようなイメージのリゾート開発ビジネスを掲げていくとのことであった。

○新ターミナルによる効果はあるものの、シヨッピングモール

との動線と流れづくりたいとのこと、課題として

は、テナント募集がうまくいかなかった。

2. 今後の本市との交流についての展望

。お互いの努力は必要であるが、もっと交流の深化を進め、TSMCの件等もあり、今後、熊本県とは交流するバマ都市であるとのことで、11月の妙見祭で「ハゲ」に行きたいとの意向が示された。

3. 最近着工した民間の物流センターの概要について

。台南拠点の統一グループが進出し、主要物流拠点となる予定があり、セブシルブメンへの物流センター等がある。

(基隆市議会)

。TSMC, サイエンスパークについては、国策の為、あまり口出しできないが、地方に来るとなれば、起爆剤となり、反対することなく、議会としては全力でサポートすることが非常に有益なことである。日頃から執行部とは両輪の如く各施策にサポートしている。

。港は国の管理であるが、維持管理や修繕補修等は基隆市で行っている為、不満の声もあった。

視察所見

議員名〔成松由紀夫〕

- ◆視察日：令和7年4月15日（火）
- ◆視察先：台湾台北市
- ◆調査項目：三三会・CTBC訪問

(CTBC訪問)

。『100年に一度のビッグチャンス』といわれたTSMCの熊本進出を受け、台湾企業の県内進出の動きも出てきており、本市としても、いち早く情報を収集し、さらに先をみずえ、今回、本市のPR、台湾経済の動向等、しっかりと意見交換ができた。ビル6棟全7がビジネスオフィスで、5Fと1Fとと連携する等、社員数が6千人で、日本では考えられない規模感であり、プロ野球団、プロバスケット、Eスポーツのオーナー会社でもある。

視察所見

議員名【成松由紀夫】

- ◆視察日：令和7年4月16日(水)
- ◆視察先：台湾新竹市
- ◆調査項目：新竹科学園區管理局，新竹市政府

(新竹科学園區管理局)

。台湾全土には、サイエンスパーククラスターが、新竹、中部、南部と3

ブロックあり。新竹サイエンスパークは1980年設立され、17万8000人が就業し、人材も7大学6万人がおり、スタートアップ支援も大変盛んである。

。用地買収については、国有地だった為、比較的スムーズであった。

。国からの支援は主に3つあり、1980年代は法人税が減免された。2000年代は廃止となり、税金の優遇措置がとられ、重要な技術開発や人材育成には補助金や助成金が出た。

人材(大学)、技術、研究機関が一体となったシステムはとて素晴らしい。

。課題としては、地下水、交通問題があるが、雨が降らない時期は水には大変苦労しており、水資源の節約やエコ活動を推進している。

(新竹市政府)

。新竹市は、平均年齢が低く、三高（出生率、収入、学歴）であり、サリオピュランドと連携した取り組みを度め、観光交流人口は台湾から日本へは500万人、日本から台湾へは120万人とまだまだ、観光交流に伸びしろがあると考えている。庁舎は建設後99年、水内題目ターマである。

1. 今後の本市との交流についての展望

。パラオと妹婿都市の為、観光連携しているが、今後、ハ代市もPRしていく。

。学校、教育については、体育を中心に考えており、

スポーツには特に熱心で、野球、ア・チアリー、ボク

シング等があり、野球は日台友好関係にある

視察所見

議員名【成松由紀夫】

- ◆視察日：令和7年4月17日(木)
- ◆視察先：台湾桃園市
- ◆調査項目：全民国防教育学科センター

(全民国防教育センター訪問)

。台湾全21学校の内の1つで全世界で国際に着眼している学校

は少なく、防災や食品、文化遺産等、戦争や有事を想定し、

学びアメリカ・トランプ大統領や国際情勢を把握し、災害に

も対応できる国民を育成するため、高校で日頃から、

互いに協力しあう学び舎である。

。グローバルな観点から生活面にいたるまでを指導してい

るが、保護者のクレーム等は少なく、むしろ協力者である。

「台湾の国民性」、「危機感」、「覚悟の高さ」、「昔段の取組」

が、現在の日本と全く違い、学ぶべきと感じた。

また、日本の高校や自治体と交流を盛んにしたいという要望

があったので、ぜひ実現したいと強く感じた。

① 基隆市政府訪問

橋本 亨一

表敬場所は市庁舎内で、多く宮邸作客と言われる日本統治時代に建築された和風づくりの家屋が大切に保存されている場所で行われ、親日的であるのが実感された。基隆港については、クルーズ船においては、年々増加の傾向にあり、2025年においては、468隻 90万人を予定しているとの事で、年々港の周辺整備が進んでいる事で、クルーズ船対応をいかに重視~~中~~されているかが見取れる。特に沖縄方面石垣島、宮古島方面への台湾銀行の投資もあり、クルーズ戦略に重点を置いていようである。又熊本へのTSMC進出に伴う八代航路にも感心があり、今後の動きに注視したいと思われた。民間の物流センター構想については、セブインランドを含む、台湾・台南統一グループが主にたつて建設されるとの事であるが、今後どのような

物流も均一化のか注視が必要があると思われる。

今後、基隆市の人流・物流の更なる交流に期待

したいと思う

②基隆市議会訪問

橋本幸一

楊副議長に対応していただいた。議会と執行部との関係

は、政策推進については、議会として全力で支援されて

いるとの事で、基隆港については、後貨地が狭い事から

物流港としては、不利な事から、クルーズ船を重視している

事が、うかがえる。又維持管理は基隆市、関税の面では

基隆市に収入がない事から国に対して不満があるよう

である。本市との交流においては、今後も積極的な

取り組みを期待されているようである。

③ CTBC 訪問

橋本幸一

台湾最大の民間金融機関のCTBC訪問で

対応していただいたのは、日本人の方であり、CTBCの経営

方針と日本を含む国際投資について、分かりやすく

説明頂き、熊本へのTSMC進出に伴い日本への今後の

期待感が感じられた。

④ サイエンスパーク視察

橋本章一

4つに分かれた新竹サイエンスパークは 総面積

1471ha、入居企業約600社以上、従業員数約17万人

年間売り上げ額 1兆元を超えているとされている。

4つのサイエンスパークは、それぞれ差があるようであるが

サイエンスパークの成巧の要因に、それぞれのサイエンスパーク

内で、産、官、学がお互いに協調し合い 目的達成に

向かって、お互い協力し合って成長している事にあると思わ

れる。又スタートアップについても力を入れているようである。

問題は水問題 等の事で、これだけの規模のサイエンスパーク

だと、それも理解出来る。又最も重要な事は、人材育成

と言われているのも理解出来る。熊本県としても同じと思われる。

⑤ 新竹市政府表敬訪問

橋本章一

新竹市はパラオとの姉妹都市を結んでおり、子供達との交流を進められているので、本市との交流もまた子供達の交流、特にスポーツを通じての交流を望んでおられる
ふうである。バドミントンその他野球、ボクシング、フーリー等
新竹市は推進されているのでこれらのスポーツに對して
本市との交流に期待を待つておられ、又熊本県へのTSMC
進出している事も、交流事業への一因とも思われる。

新竹市は農業も盛んで、特にイモの栽培が盛んで
うて、本市との農業交流も期待出来ると思われ、日本統治
時代新竹の農業試験場の場長を務めておられた
本市出身の晩白柚を普及された梶田弥市氏が新竹市
に貢献された歴史的繋がりから進めていけるのでは
と思われた。

⑥ 全民国防教育センター視察

橋本章一

全民国防教育センターは、私のイメージしていた施設とは全く違った施設であった。陽明高中との名称で、日本の高等学校と同じような学校施設であった。しかし教育内容については、一般の教育科目の他に、国防・災害等に特化した教育があり、国家安全と防衛の基本理念、災害時の対応（防災訓練、応急処置）、軍の基本的な組織・装備、任務、サイバーセキュリティや心理戦等の現代的課題と細部にわたった国防教育カリキュラムの基、行われていて、中国に對しての備への一部分が見て取れた。同時に台湾有事が現実とみれば、日本も特に九州も有事とみる可能性が~~あり~~ありと言われている中、日本国内の危機感の無い事に不安が募った。

台湾視察所見

村川 清則

基隆市政府

本市と基隆市との交流は、平成27年4月に中村市長と当時の橋本議長が基隆市を訪問した時から始まっている。以来互いに訪問団を派遣したり平成28年からは「くまもと県南フードバレーフェア in 台湾基隆市」を開催するなど交流が続き、平成30年4月に友好交流協定を締結している。我が国がコロナ禍にあってマスクが不足していた時、基隆市から250枚の布製マスク、15,000枚の不織布マスクが寄贈されたことは記憶に新しいことである。

基隆市は基隆港を核に港湾都市として発展してきた都市で、貨物取扱量は台湾第4位である。また大型クルーズ客船が一度に四隻停泊できる埠頭やターミナルも整備されており、寄港回数及び乗船客数は台湾でトップである。ちなみに2025年は468隻の寄港で903,000人の乗客数だったそうである。

今後の本市との交流についての展望であるが、物産展やお互いの訪問を通じ信頼関係を深めていきたいということであった。邱副市長におかれては11月の八代妙見祭を視察しに来八したいとのことであった。

基隆市議会

統治下の日本が残した軍用共用の港湾都市、ハブ港として発展してきたが、台北にも近く港周辺を整備することによる観光地化が進み、国際的なターミナル港として発展している。今後はこのクルーズ事業を進展させたいという強い思いを持っておられた。現在、日本へは石垣島へのクルーズ客が最も多いそうであるが、TSMCの進出により今後八代港への関心も増加するのではないかとのことであった。港は国が管理し税関収入は国の収入になるようで少しご不満なようであった。最近着工した物流センターであるが、運営は統一グループによるものようである。台湾では半導体関連の運搬に港は使わないそうで、材料・製品とも空路とのことである。

新竹市サイエンスパーク

新竹科学園區「サイエンスパーク」は、元々清華大と工研院がこの地にあり造成したとのことで、当初はPCの製造主体であったが次第に集積回路、半導体製造へと変遷しているようで、現在世界一の半導体産業クラスターが起きているとのことである。総面積1,471haにTSMC本社など1,155社、約33万人が働き年間売り上げは1兆5千億元を超える。台湾では『3高1低』（教育水準・収入・出生率が高く、市民の平均年齢が低い）の都市と言われている。国主導での施策であり、国有地が多かったこともあり土地の収用はスムーズにいつ

たようである。土地は賃貸のみで賃料は相場の三分の一で、毎年約100億円を基金に繰り入れ維持管理費用に充てている。以前は法人税など税制上の優遇処置があったようであるが、現在はないとのことである。

半導体製造には多量の水が必要であるが、雨が少ない季節には他所から水を運搬したり、国の補助により農業用水を半導体製造用に使用しているそうである。

新竹市政府 市議会

本市と新竹市とは昨年9月に友好交流協定を結んでいる。市政府の正面玄関ロビーに中村市長直筆の締結書が掲示してあり感動したところである。

TSMCの熊本進出により本市の期待も大きくなっているが、民間の交流が大切なことであろう。本市とはバドミントンを通じスポーツ交流を行っており、素晴らしいことであると考え。新竹市でもバドミントンをはじめ野球やボクシングなども盛んなようで今後の交流が楽しみである。

今年は友好交流協定1周年記念として、市民使節団の相互訪問や八代港セミナー、パネル展の開催、新竹交響楽団の公演も予定されているようであり楽しみである。

新竹市政府や市議会議員の皆さんも日本の温泉や花火・祭りに興味があるようで、もちろん日奈久温泉や、やつしろ全国花火競技大会・八代妙見祭をPRしたのはいうまでもないが、すでにご存じのようであった。

CTBC

中國信託商業銀行（CTBC）は1966年に台湾で創立された民間金融機関であるが、さらに国際化・多角化経営による総合的金融サービスを提供する金融グループを構築することを目的に2002年に中国信託ホールディングが設立され、中核事業として積極的に海外で業務展開を行っている。わが国では「東京スター銀行」が傘下であるが、台湾台北市を本社にアメリカやカナダ、インドなど全世界に370を超える拠点がある。

建物と建物をつなぐ長い通路には、世界中で働き優秀な成績を上げた社員の顔写真付きのポスターというか幟みたいなものが掲示してあり、社員の士気を鼓舞している。わが国がいろいろな面で世界に後れを取っているのは、こういうところなのではないか。子供の頃から競争させることをためらう風潮にないか、考えさせられた。

全国防教育センター

台湾は面積が九州ほどの小国であり、その成り立ちから中国の武力に脅かされてきた経緯がある。陸・海・空の軍があり徴兵制度が敷かれている。特に近年では中国軍の台湾周辺での軍事訓練が恒常化しており、台湾有事を想定したシミュレーションも行われているようである。

台湾の国防教育センターは、国民の国防意識を高め国防意識を育成することを目的とする機関である。一見普通の学校であるが常に国防教育を提供し子供の時から安全意識と防衛意識を高めている。

私を含め戦争を知らない世代が増え、平和ボケした国民が多くなっている現在の日本を憂いているのは私だけであろうか。

海外行政視察所見

議員名【 北園 武広 】

◆視察日：令和7年4月14日（月）

◆視察先：台湾基隆市政府・基隆市議会

◆調査項目：①クルーズ船の最近の動向について

②今後の本市との交流についての展望

③最近着工した民間の物流センターの概要について

①クルーズ船の最近の動向について

近年の基隆港の寄港数を伺った。2024年はクルーズ船331隻、利用者787,000人であり、2025年はクルーズ船468隻、利用者903,000人と想定されている。現在クルーズビジネスとして宮古島と石垣島に運航しているが、今後は八代市への航路の開拓を検討しているとの事であった。また、台新銀行は基隆市にある「東基隆分行」を拠点に、基隆市と八代市を訪れる観光客がクレジットカードを利用すると、特典が提供されるキャンペーンを実施するなど、八代市と基隆市の経済・観光交流を支援する活動を展開されている。基隆市^{きゅう} 邱副市長や基隆市議会^{よう} 楊副議長からは、これからも基隆港と、くまモンポート八代との寄港回数を増加させ、地域経済への波及効果を期待するとの事であった。

②今後の本市との交流についての展望

・観光交流の促進：観光資源の相互紹介や観光イベントなどの共同開催を通じて、観光交流をさらに活性化させる。・教育、文化交流の強化：青少年や学生の交流プログラムを拡充し、文化理解と友好関係の深化を図る。・産業、経済連携の推進：港湾を中心とした物流や貿易の促進そして、地域産業の技術交流を通じて経済的な結びつきを強化する事で、地域社会の発展に寄与することが期待される。また、今年の11月に八代市で開催される「妙見祭」を、基隆市視察団を結成し視察する予定であるとの事だった。

③最近着工した民間の物流センターの概要について

台湾の物流業界で、積極的な投資を行っている統一グループのプロジェクトである、特に冷蔵・冷凍物流に注力している。基隆市は台湾北部の主要な港湾都市であり、基隆港

海外行政視察所見

議員名【 北園 武広 】

◆視察日：令和7年4月15日（火） ◆視察先：台湾台北市

◆調査項目：①CTBC 訪問

①CTBC 訪問

台湾を代表する金融グループであり、銀行・保険・証券・資産管理など多岐にわたる金融サービスを提供されている。グループ全体で、台湾国内外に広がるネットワークを活かし、個人・法人向けの総合的な金融サービスを展開されている。

事業の内容と今後の展開について伺い、会社内外を視察させて頂いた。

海外行政視察所見

議員名【 北園 武広 】

- ◆視察日：令和7年4月16日（水）
- ◆視察先：台湾新竹市新竹科学園區管理局・新竹市政府
- ◆調査項目：①サイエンスパーク内の企業との具体的な連携の取組について
 - ①新竹市の概要
 - ②今後の本市との交流についての展望

☆新竹科学園區管理局訪問

サイエンスパークは台湾全土に、新竹サイエンスパーク・中部サイエンスパーク・南部サイエンスパークの三か所ある。新竹科学園區は、台湾の国家プロジェクトとして1980年に設立され、台湾最大のサイエンスパークである。特徴として①優れた環境整備がされていて、緑化を重視し運動施設や社員寮などが充実している。②ワンストップサービスが充実していて、敷地内は国・自治体から援助、委託を受けている。パーク周辺に研究機関8財団法人・研究員が1万人いる。③一流の研究開発環境と優秀な人材として、パーク周辺に研究型大学が7大学（学生約6万名）新竹市に博士9千人いる。

質問事項としてQ1 新竹の特徴・課題は？A1 すべてが国有地である。周辺の環境整備が重要である。Q2 国からのサポートは何かあったか？A2 段階的な優遇措置・環境整備補助・人材育成補助などがある。Q3 水の問題は？A3 水不足は国と相談し、他地区より運んでくる。一部の農業用水を補助等を使って利用している。Q4 ビジネスモデルは国策か？もともと新竹にあったものなのか？A4 大学と研究機関は全部ではないがもともとあった。マッチング作業も管理局が担っている。など活発な意見交換が出来た。

☆新竹市政府との意見交換

①新竹市の概要 ・人口は 457,269 人 (2024 年 6 月) ・主要産業は半導体産業
・特色は、1980 年に新竹科学園区 (サイエンスパーク) が設立され、TSMC をはじめとする世界的な半導体企業の本社や工場が立地し、台湾のシリコンバレーと呼ばれている。台湾の都市の中では、「3 高 1 低」(教育水準・収入・出生率が高く、市民の平均年齢が低い) の都市と言われている。

②今後の本市との交流についての展望

・今までも両市の小・中学生がバドミントン交流を行っているが、それ以外にも野球・ボクシング・アーチェリーが盛んに行われているので、スポーツ交流に興味を持たれていて、友好交流には効果が大いいのではと考える。また、農業分野での食文化に関する交流に意欲的で◎トマトを中心とした露地野菜や、晩白柚を中心とした柑橘類などで、交流が出来たらとの事であった。

海外行政視察所見

議員名【 北園 武広 】

◆視察日：令和7年4月17日（木）

◆視察先：台湾桃園市全民国防教育センター

◆調査項目：台湾における中高段階での全民国防教育の取組について

1. 学校の印象と歓迎体制

校門前には視察団を歓迎する案内看板が設置されており、丁寧な対応から学校のホスピタリティの高さを感じられた。校舎は整備が行き届いており、「禮義廉恥」の校訓が掲げられるなど、道徳教育にも力を入れている印象を受けた。

2. 全民国防教育に関するヒアリング内容

◎教育課程

全民国防教育は、教育部の指導に基づき、週1コマ程度の選択授業として実施。

内容は国防の基本概念、安全保障、防災知識、応急処置など多岐にわたり、軍事に偏らず「生活に根ざした安全教育」として位置づけられている。

◎授業方法

講義形式だけでなく、グループワークやケーススタディ、体験活動なども積極的に取り入れているとのこと。学生の関心を高める工夫が見られる。

◎外部連携

軍関係者や大学の専門家による特別講義も年数回実施され、実践的な視点を補っている。

地域防災訓練や学校行事と連携した国防教育イベントも計画されている。

3. 所見

・先進的な取り組み：単なる知識の詰め込みではなく、学生の主体的な理解や判断力の育成を重視している点が印象的だった。

・柔軟なカリキュラム設計：国防教育を、「道徳・公民教育」の一環として位置づけ、軍事色を抑えつつも安全保障への理解を促進している点は、他地域への参考にもなる。

4. 提案・留意点

今後、授業の効果測定（アンケート・フィードバック分析など）を取り入れることで、さらに実効性を高められる。

台湾ならではの地域特性（地政学的環境や災害リスク）を反映した教材の開発が進めば、より実践的な教育になると考えられる。

5. 総括

陽明高中の全民国防教育は、生徒に「現代市民としての安全意識・公共性」を育てる実践的な取り組みであり、日本における防災・公民教育にも通じる視点が多く得られた。今後の国際的な教育交流やカリキュラム開発において、大きな示唆となる。

海外視察所見 |

委員名 [友枝 和也]

- ◆ 視察日・令和7年4月14日(月)
- ◆ 視察先・台湾基隆市
- ◆ 調査項目・基隆市・基隆市議会

4月14日15時～16時、基隆市中正区にある日本庭園作りの官邸作客にて基隆市副市長、文化観光局局長、基隆市姉妹市促進会理事長、他5名と通訳を交えて意見交換を行う。

基隆港については、基隆市長のリーダーシップで観光に力を入れている為、基隆港から沖縄、石垣島へのクルーズ旅行が増えている、基隆から日本への旅行が増加している分、日本から台湾への旅行がなかなか増えていないので、八代からもドンドン台湾に観光旅行に来て欲しいとの要望。観光資源の相互紹介や、観光イベントなどの共同開催を通じて交流を促進していけば益々、台湾と八代市の新しい交流が出来るであろう。

これから台湾と熊本の友好的な関係が構築されて行く中で、基隆市と八代市のお互いの努力が必要で、基隆港から八代港クルーズの実現に向けて力を合わせていきたいと思いますと提案。民間業者同士の交流を行いつつ、スポーツを通しての交流も続けていこうと同意。

11月の妙見祭には基隆市から訪問団を検討するとの事で和やかな雰囲気の中で有意義な意見交換が出来たと感じました。

海外視察所見 2

委員名 [友枝 和也]

- ◆ 視察日・令和7年4月15日(火)
- ◆ 視察先・台湾基隆市
- ◆ 視察項目・基隆港、ANIVRSE、CTBC

基隆港視察では、八代港と比べてガントリークレーンの数の多さとターミナルビルの設備の大きさの違いに驚きクルーズ船の離着岸のしやすさ、安全性での優位も感じられ、観光港としても見習うべき港だと思う。

八代港は浅いため市内から港まで距離があるが、基隆港は深いので住宅街やホテルが港の近くにあり、観光地としての港の位置に優れている。

ANIVRSE 基隆見学では、2023年に旧基隆駅を改築した施設で、独自の感覚エンターテイメント機器、LEDスクリーン、立体メガネ、VR仮想現実を使用して、これまでにない没入型体験を実現させ、地球温暖化などのアース規模の問題提起をゲーム感覚で教えている。

CTBC 社内見学では、役員の方から台湾を基盤に国際的な金融活動を行っている台湾最大の民間金融機関であると事。国際化と多角化経営による総合的な金融サービスを提供するために、海外での事業展開を積極的に行っていると説明を受け、社内にある会社の歴史館に案内していただき、物を大切にとの創設者の教えを学びました。

委員名 [友枝 和也]

- ◆ 視察日・令和7年4月16日(水)17日(木)
- ◆ 視察先・新竹市
- ◆ 調査項目・新竹市政府、新竹サイエンスパーク、
全国国防教育センター

新竹市政府、市議会議員との意見交換会では、八代市と新竹市の友好交流を促進し親善の絆を深め、お互いの繁栄と活性化を図っていかうとの事。

相互に観光、産業、文化、教育、科学技術等の各分野で協力することを約束。現在はスポーツ振興を先行して行って行く事になり、日本と台湾の友好交流で少年野球を通してやって来たので、これから八代市と新竹市でも、バトミントンや日本の相撲でもいいから、色々なスポーツを通して関係を深めて行ければいいと前向きな意見交換が出来た。そして、新竹市政府から八代市の花火大会や妙見祭りに使節団として行ってみたいですよとの話もあり、終始和やかな雰囲気での意見交換となった。

新竹サイエンスパーク視察

敷地面積5101ha 入居企業1151社

1980年創設。1990年代から半導体の製造が盛んになり、台湾初のサイエンスパークで台湾だけの技術ではなく、全世界の技術を結集している。

生産、生活、エコロジーに優れた環境。

管理局利便性、即日おもてなしのサービス、一流の研究開発環境。優秀な人材あり修士学歴以上従業員42%。スタートアップ支援が充実。

人材が全ての元であるとの事。

全国国防教育センター視察では、教頭先生他2人の先生を通訳を通じて意見交換を行う。

元々中高一貫校で、途中で入学する生徒が増えている。国防教育について保護者からの苦情は少なく、学科センターウェブサイトの最適化や最新の指導案を提供し、特に新しいカリキュラムガイドラインや時事問題に対応した教材など、教育リソースを定期的に更新しているとの事。

国際時事を楽しく学ぶ読解力ワークブック、指導案の教育ビデオおよびオーディオファイルを作成し、現場の教師が参観できるようにしている。

海外視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和7年4月14日（月）
- ◆視察先：台湾基隆市
- ◆調査項目：基隆市政府、基隆市議会

・基隆市政府意見交換

出席者・・・副市長 邱佩琳、民生處處長 張淵翔、文化観光局局长 江亭玫、基隆市姉妹市促進会理事長 陳世斌、基隆市姉妹市促進会總幹事 李經緯

①クルーズ船の最近の動向について

今年3月市長・副市長で飛鳥クルーズを訪問し、意見交換を行う。台新銀行によると、基隆～日本クルーズがトレンドになってくると予想される。基隆港については、2024年331隻7.8万7千人の利用、2025年468隻90万3千人の利用が想定されている。これからクルーズ事業は新たな局面を迎えると考えられている。これからも両市の交流を深めて、基隆～八代航路につながればいいといった意見が出された。

②今後の本市との交流についての展望

これまでと同様に両市で物産展を実施するなどして、相互交流を続けていきたいとの考えを伺った。また、観光や教育交流などさらに多様な分野で協力を拡大し、相互理解と都市の発展におけるパートナーシップの深化を図りたいとの意向を示された。本年11月に副市長を代表とする訪問団が来代する予定である。妙見祭を観覧する予定である。

③最近着工した民間の物流センターの概要について

台南市に本社を置く統一グループが行う40億元が投資される重要なプロジェクトである。将来的には、北台湾の主要物流拠点となる予定である。

・基隆市議会意見交換

出席者・・・基隆市議会副議長 楊秀玉

最近着工した民間の物流センターの概要について

議会としては大手ブランドの誘致を行っていききたいと考えている。今回の物流センターの誘致については、議会として、執行部を全力でサポートしていききたいと考えている。このような案件には執行部と議会が連携して取り組むことが大事であるとの意見を伺った。

海外視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和7年4月16日（水）
- ◆視察先：台湾新竹市
- ◆調査項目：新竹科学園區管理局、新竹市政府

・新竹科学園區管理局訪問

対応者・・・投資組組長 李淑美

サイエンスパーク内の企業との具体的な連携の取組について

台湾全土にサイエンスパークは3カ所（新竹サイエンスパーク、中部サイエンスパーク、南部サイエンスパーク）あり、そのGDPは、4兆5千億元（内、新竹サイエンスパーク1兆5千億元）である。総敷地面積は、1,471haで、入居企業は600社以上、外国企業が約80社、そのうち日本企業が12社である。管理局は国の機関である。国や自治体の権限はサイエンスパーク内においては、管理局に移譲されている。土地は賃貸のみで、場合によっては、工場の賃貸も行っている。賃料が維持管理費用に充てられている。サイエンスパーク内は、法令によって管理されている。

・新竹市政府意見交換

出席者・・・市長代理 邱臣遠、新竹市議会議員 陳啓源、廖子齊、産業發展處處長 嚴翊琦、行政處處長 許智堡、教育處處長 林立生、都市發展處代理處長 蘇文彬

今後の本市との交流について

バドミントンを中心とした交流が行われているが、更なる、スポーツを通じた交流を深めていきたいとのことであった。新竹市は、バドミントン以外に野球・ボクシング・アーチェリーが盛んにおこなわれている。また、違う分野、例えば農業などでも交流していければとのことであった。観光についても、双方での往来が進めばとのことであった。

海外視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和7年4月15日（火）
- ◆視察先：台湾台北市
- ◆調査項目：CTBC訪問

・CTBC訪問

対応者・・・江畑裕美子、謝銘峰、三島一泰

台湾経済団体三三会の中心で事務局を担っているCTBCがどのような企業であるか、今後の日本で
の展開等について伺った。

海外視察所見

委員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和7年4月17日（木）
- ◆視察先：台湾桃園市
- ◆調査項目：全民国防教育学科中心

・全民国防教育学科中心の取組について

対応者・・・桃園市立陽明高級中等學校校長秘書 鄧美智、他数名

日本の高等学校にあたる。中国との有事の可能性のある台湾において、どのような教育が行われているのかを伺った。台湾の教育部が定めたカリキュラムに基づき、「全民国防教育」が実施されている。内容としては、国家安全と防衛の基本概念、災害時の対応、軍の基本的な組織・装備・任務、サイバーセキュリティや心理戦などの現代的課題である。元々は国立の教育機関である。普通の高等教育に加え、最新の世界情勢をテーマとした議論を行い、国としてどうすべきかといった国家観につながる教育が行われている。教員同士の研修を通じた交流も活発に行われている。卒業後、軍に進む人間は、学年700人中20人程度である。こういった教育を行うことで、日常の中でも、災害時の対応など多くの事に対して、柔軟に対応できる人材が生まれている。

海外行政視察報告書

令和7年5月1日

議員名：橋本隆一

視察国：台湾（台北市・基隆市・新竹市）

期 間：令和7年4月14日～17日（3泊4日）

※ 訪問時における視察先の施設対応者名簿は別紙「海外視察資料」を参照

1. 基隆市政府表敬訪問

日 時：令和7年4月14日（月）

場 所：官邸作客（基隆市中正区中正路230号）

視察概要・所見

基隆市「官邸作客」において邱（きゅう）副市長はじめ基隆市役所幹部職員の方や姉妹都市促進会役員の方々から厚い出迎えを受ける。

「官邸作客」は戦前に日本が統治していた和風の建築物で主に日本からの来客を招く際に歓迎して迎える場所として活用しているとのこと。

意見交換として主に次の3点について行う。

①クルーズ船の最近の動向について

コロナ禍を過ぎ昨年あたりから寄港する船が増えてきている。

2024年は331隻、78万7000人、2025年は468隻約90万人程である。今後も増加傾向にあると思われるとのこと。

②今後の八代市との交流についての展望

姉妹都市として双方共に益々交流を深めていきたい。11月の八代市の「妙見祭」開催の頃に副市長も八代市を訪問する予定とのことであり、村川議長より「心よりお待ちしております」と期待の言葉を伝える。

③最近着工した民間の物流センターの概要について

邱副市長より「大智通物流センター」には40億台湾元（約176億円）が投じられ完成後には台湾北部地域における重要な物流拠点になるとの話がある。

また、邱副市長より「完成後には八代市との橋渡しになります。」との話もされ双方から拍手が沸いていた。

終始、和やかな中での懇談的な意見交流ができた。八代市への訪問についても伺う事ができ、今後ますます姉妹都市としての交流が期待できる事を強く感じた訪問であった。

2. 基隆市議会表敬訪問

日 時 : 4月14日 (月)

場 所 : 基隆市議会議会棟

視察概要・所見

基隆市議会議会棟を訪問する。5階建ての建築物であり市役所並みの大きさを感じた。

楊 秀玉副議長他、議長室職員始め10名の方々に対応して頂く。

八代市議会から村川議長が訪問の挨拶を述べ、基隆市議会 秀副議長から歓迎の挨拶がある。

双方のこれまでの交流の経過や今後について懇談的に話し合うことができた。

村川議長より、先ほど邱副市长とも懇談的に話し合うことができ、クルーズ船の寄港状況や今後の交流について有意義な話を伺うことができた事を伝える。

秀副議長より今後も八代市との交流を積極的に行い、双方の発展につながる様に取り組んで参りたいとの話がある。

3. CTBC (中国信託商業銀行) 視察

日 時 : 4月15日 (火)

場 所 : 台湾CTBC (中国信託商業銀行)

視察概要・所見

CTBCは、台湾最大規模の民間金融機関で、台湾の大手金融グループ、CTBC Financial Holdingの中核企業である。グループのネットワークを活用したグローバルな活動によって大きな成長を遂げている。

組織関係部に所属されている江畑由美子氏に会社の概要について説明を受け、社内見学の案内もして頂く。会社の規模の大きさに驚く。プロ野球チームも抱えているとの事。

説明の中で日本とのビジネスにおいても双方の利益につながる様に取り組んで行きたい江畑氏の様に日本人のスタッフも多く勤務しておられるとのことで、今後のビジネスパートナーとして更なる期待を持つことができた視察であった。

4. 新竹科学園区管理局訪問視察

日 時 : 4月16日 (水) 10時~11:30

場 所 : 新竹科学園区管理局

視察概要と所見

新竹科学園区 (新竹サイエンスパーク) は新竹地方の一つの工業団地から始まり後に台湾全土の6つの工業団地に拡大した複合工業団地である。

新竹科学園区 (新竹サイエンスパーク) の管理局を訪問視察しこれまでの主な取組と今後の展望について話を伺う。

職員の方から新竹サイエンスパークの沿革と現在の取組状況についてDVDを見ながら説明を受ける。

サイエンスパークは台湾の科学技術産業を育成する計画経済の一環として1980年に創設された。総敷地面積は1471ヘクタールの広大な敷地にグローバルに活躍する企業が研究施設、工場を構えているほか、世界各国の先進科学企業の工場や支社も置かれている。従業員は合計で17万人とのこと。

なかでもTSMC（台湾セミコンダクター・マニュファクチャリング・カンパニー）は最大の企業である。

管理局は国の機関であり、各園區（サイエンスパーク）の管理、許認可を行っている。新竹市のサイエンスパーク内を車窓から視察し広大な敷地であることが実感できた。公園内には樹木も多く芝生なども敷き詰めてあり田園の中に工場があるといった印象を受ける。自然環境を大事にして取り組んでいることが理解できた。

5. 新竹市政府表敬訪問

日 時 : 4月16日

場 所 : 新竹市役所

※新竹市の概要及びこれまでの交流等の経過については別紙「海外視察資料」参照

新竹市役所は台湾新竹東区にある日本統治時代に建築された建物であり、当時の外観のままの状態であり、市の文化遺産登録がされており美術館としても利用されている。

今回の視察において新竹市より市長代行を始め市の行政幹部の方市議会議員の方等との意見交換会を行うことができた。

八代市の村川議長よりこれまでの新竹市との交流の経過や今後も互いに交流を深めて参りたいとの挨拶があり、新竹市 邱代行市長より歓迎の挨拶があり今後も互いに交流を深めて参りたいとの内容であり互いに今後の交流について民間レベルのスポーツ交流や行政視察団の相互の派遣により経済面や文化面での更なる発展を期していきたいとの話があり今後も更なる双方の交流を大事にしていく事について確認することができた。互いの市の状況や課題について懇談的に質疑応答がなされ有意義な意見交換がなされた。

意見交換会の後、市役所内を見学させて頂く。当時の作りを大事にされていながらも今の時代に応じた設備がなされており感銘を受けた視察であった。

6.桃園市立陽明高級中学校視察

日 時：4月17日

場 所：桃園市立陽明高級中学校

桃園市立陽明高級中等学校は日本の高校に当たる。林校長より出迎えの挨拶がある。職員の方から学校の教育方針や教育内容についてDVDを見ながら説明がある。

台湾においては、全民国防教育法に基づき国防教育は必須科目とされている。青少年の愛国心と国防に対する意識の向上を目的としているとのこと。

また、近年は災害防災の教育にも力をいれているとの事である

普通科27クラス。美術家3クラスであり、廊下には美術家の生徒の作品がいくつか飾ってあるがレベルの高さを感じた。生徒数は2700名であり、林校長以下34名の先生が指導されているとのこと。

校内を見学させて頂きながら説明を受ける。自由な校風の中に愛国心や自主・自立の精神を養う事に力を注いでおられる事を感じた。

見学をしながら校内を回る中で「歓迎 八代市議会」と書かれたポスターが多く掲示してあり細かな配慮に感謝する。

全体所見

今回の台湾視察においては、主に基隆市と新竹市を訪問させて頂きこれまでの八代市との交流の深さと信義の厚さを感じるものであった。

基隆市においては、平成30年4月に友好交流協定が締結されている。新竹市においては、令和6年9月に友好交流協定の締結がなされており、今回の視察において両市から大変暖かい心のこもった歓迎を受け 両市へのこれまでににおける八代市からの市長を始め議員団交流や民間交流でのつながりを強く築いてこられた取組に対し深く敬意を表するものである。

基隆市を訪問した際、話をさせて頂いた市議会議員さんから台湾においても日本と同様に台湾においても少子・高齢化が社会的課題となっており、子育てや高齢者への支援の充実を図る施策が必要との話を伺う。台湾においては半導体技術の発展やシェアの拡大において目覚ましい発展がなされてきているが、社会的な課題について話を伺う中で社会保障の充実と経済の新興は両輪であるとの認識を深める。

文化やスポーツまた経済の新興において今後も両市とも交流を深め更なる絆を深めて行くことが大事であり、信義には信義で応えていく関りを続けていくことの大切さを感じた視察であった。

今回の視察において、企画、資料作成や関係機関との連絡・連携に奔走頂いた皆様に心より篤く感謝申し上げます。また、4日間ガイドと通訳をして頂いた高さんには大変お世話になり感謝申し上げます。